

第183回 森で遊ぶ会「秋の富士山紅葉台」

日時：令和3年10月26日（月） 7時30分～18時00分

場所：山梨県鳴沢村 紅葉台

参加者：男性3人、女性25人、合計28人

担当幹事：大澤、佐野

アシスト会員：青野、大石、小久保、小嶋、杉山、高橋、中川

コロナ禍で中止となっていた「森で遊ぶ会」ですが、ようやく実施することができました。

多数の参加希望がありましたが、座席配置などを調整し28人(現地参加者1名を含む)参加していただくことにしました。バスには、インストラクター4人が同乗し、他のインストラクター5人は、現地まで乗り合わせて行きました。天気予報では午前中には雨が上がるとのことでしたが、朝から雨も上がり、絶好の観察会日和となりました。

まだ、紅葉は始まっていませんでしたが、紅葉台駐車場から紅葉台展望レストハウスまで、車道を歩きながら植物を観察しました。カエデのトンネルを歩くと涼しく感じられ、清々しい気分になりました。レストハウスから三湖台までは、やや急な登り坂。足元に注意しながら登りました。三湖台に到着すると絶景が待っていました。青木ヶ原樹海、本栖湖、西湖、富士山の美しい姿を観ることができました。三湖台で昼食をとった後、鳴沢氷穴までは遊歩道を歩きながら、また観察を続けました。

4班に分かれて実施したので、班の様子を担当者から紹介してもらいました。

『観察会の様子』

(1班 小久保、高橋)

第1班はリピータのベテランと最近会員に加わった方との混成部隊で、参加者9名+インストラクター2名の班だった。先頭切って出発した方なのに、駐車場付近のヤマブドウ、モミなどをじっくり見てもらっているうちに、早くも出遅れ組になってしまった。構わず道々の樹木を見ながら、「さあ、これは何という木でしょう？」とクイズばりに解説を加えながら歩いたので、更に他班に遅れて最後尾になってしまった。しかし樹種があまり多くないので、観察行としてはやや面白みに欠けたかもしれない。見られたカエデ類はイロハ、ウリ、ヒトツバ、イタヤ、コハウチワ、オオモミジなどで、その特徴や見分け方を見もらった。中では、ヒトツバカエデの丸く大きな葉が印象的だった。とりわけ、暗い林の中で逆光に浮かび上がる鮮やかな黄色が、皆さんを魅了したようだ。ただ紅葉にはまだ早いので、色鮮やかという点では木の実の方が注目を浴びた。ガマズミ、ツリバナ、ソヨ

ゴなどの赤い実が目についた他、マユミやムラサキシキブの実が見られた。

そんな中で今回のハイライトは、何と云っても好天に恵まれた中で冠雪した富士山や南アルプスの展望を堪能出来たことだろう。途中ゆっくりしすぎたので最後はハイペースで登りを歩かなければならなかったこと、また三湖台と言いながら2湖しか見えなかったことなどはすっかり忘れて、「展望台からの眺めは110%」とじてくれたのではなかろうか。帰路は滑りやすい足元に気を遣いながらの歩きになったので、あまり木々を観察する時間もとれなかった。しかし平らな樹海に入ってから、あちこちに生えているキノコに目をやることができた。「これはチャナメツムタケ、美味しいキノコです。こちらはドクベニタケ、食用にはなりません。」などと解説しながら歩き、楽しんでもらった。新芽の天ぷらが美味しいハリギリ、コシアブラなどの落ち葉も見かけた。「これは食べられる木です。」と話すと、「えっ、どうやって?」とすかさず反応が返ってきた。とかく「食べられる」という話しには、皆さんの食いつきがよい。そんなこんなで歩いているうちにすぐに終着点に着いてしまった。でも、皆さんまだまだ歩けそうな感じだった。

(小久保 記)

(2班 青野、杉山)

高木が林立する森での観察は、葉や冬芽など手に取って確認できないので難しい面がありました。その中で、ある程度、樹種を絞り説明することにしました。

まず、樹液を垂らすモミが目に入ったので、樹液の香りを嗅ぎ、樹液の役割を話しました。ヤマブドウでは葡萄染めに関する事以外に最近ではワインの原料として使われていることや、薬効について説明しました。この林に多く生育しているウリカエデの葉を取りウリカエデとウリハダカエデの見分け方を覚えてもらいました。また、傍らに自生するハクウンボクの幼木の葉を1枚外し、葉痕とその真中にある冬芽を見ていただき、これが葉柄内芽であることを説明しました。会員の皆さんは、これには強く興味を示され、自分たちでも葉を外して確認していました。カエデ類で変わり種のヒトツバカエデを観察し、逆光に薄黄色が透け美しく、満足していただけました。草花では、ヤクシソウ、リュウノウギク、ノコンギクについて名の由来など話しながら楽しんでもらいました。オオフジイバラ(幼木であり確定できないため、托葉の形から推測)に残っていたローズヒップが偽果であること、関連して食用のイヌバラのローズヒップについて栄養価など解説しました。ただし、目の前にあるオオフジイバラやノイバラのローズヒップは有毒であることを付け加えました。

三湖台で晴天に輝く南アルプスや富士山、御坂山塊を見て楽しみながら昼食を済ませ、いよいよ後半、ゴールの鳴沢氷穴を目指します。途中、ハリギリやシナノキなどの特性、利用について説明しました。「確かにこの辺りにあったなー。」と道端に目をやりながら探していると、「これですか?」と会員が見つけてくれたのがセンボンヤリ。その先に目を

やると、なんとセンボンヤリの群生です。風で飛ばすばかりの状態のものの中で、花もあり（ただし、この時期のものは全て閉鎖花）、種子の状態や花の状態からもセンボンヤリの名の由来が察することができました。その後も、清々しい緑の中を木々を見ながら歩き、無事、鳴沢氷穴にゴールしました。

（杉山 記）

（3班 中川、大石）

林道沿いは高い樹が立ち並んでいて、いきおい目は背の低い草花に向けられがちでした。道端に黄色い花の「ヤクシソウ」が咲いていました。この名前は（葉が）薬師如来に似ているからつけられたと話しておきました。白色の「リュウノウギク」も咲いていました。葉、茎からの強い香りが特徴ですが、中には香りがしない似たような別品種のキク系の花も咲いていました。林道沿いにはイロハモミジ、ウリカエデ、ヒトツバカエデ、ホウノキ、アカマツ、ナラ類、シデ類の樹木が目につきました。参加者が期待していたブナの木は残念ながら見られませんでした。

紅葉にはまだ早くわずかに色づきが始まった程度でしたが、ヒトツバカエデだけはあざやかな黄色に色づいてみごとでした。道端には、あちこちにドングリが落ちていました。コナラの実かミズナラの実か迷いました。葉は高い所にあり、判別は難しく、ドングリの殻斗から推定した結果、両方ともあったとの結論に達しました。

紅葉台までの林道の登りは意外ときつく、参加者の中には、三湖台へ行くのは諦めたいとの弱音も出てきましたが、三湖台をあきらめるなんて、笑われると励ましながら登ってゆきました。途中の林間から新雪の積もったばかりの白く輝く富士山の景色は見事で、しばし写真撮影に夢中になっていました。三湖台では、雨上がりの晴天下、青木ヶ原～三湖を望む雄大な眺めは見事で、それまでの苦労はウソのように吹き飛んでしまい、各自思い思いに陽だまりのベンチでお弁当を楽しみました。

（大石 記）

（4班 小嶋、佐野）

5名の少人数の班だったので、マイクも必要なくガイドすることができました。

散策を開始後、木曾馬牧場の入口に干し草があったので、馬の餌や木曾馬の歴史について話しました。予期もしなかった「馬」の解説でしたが、皆さん興味を持って聴いてくれました。

その後は、いつもの草花や樹木の観察でした。ヤマブドウ、ヤクシソウ、リュウノウギク、マユミ、ツリバナ、ホオノキ、イタヤカエデなどがありました。リュウノウギクを見たのは初めてという参加者が多かったので、葉を揉んで匂いを嗅いでもらいました。

まだ紅葉は始まっていませんでしたが、木々の下を歩くと涼しく、清々しい気持ちになりました。赤い実をつけたマムシグサ、紫の実をつけたムラサキシキブなどが目に留まりました。これらの植物が目立つ色の実をつける理由を考えてもらいました。「鳥」という

声があがったので、鳥が種子散布に重要な役割を担っていることを解説しました。ゆっくり観察していたので、予定よりだいぶ遅れてしまったことに気づき、ピッチを上げて歩きました。目的地の三湖台へは30分程遅れでしたが、無事到着することができました。

展望デッキからは、雲一つない青空の下、青木ヶ原の樹海が広がり、西湖、本栖湖がきれいに見えました。富士山も雪化粧して雄大な姿を見せてくれていました。素晴らしい眺望に、皆さん満足した様子でした。

帰りは展望台レストハウスでトイレ休憩し、来た道とは違うルートを歩きました。遊歩道は急な斜面で滑りやすいので、ストックを使いながら慎重に歩きました。途中、センボンヤリが密生している場所がありました。ほとんどが実をつけていましたが、みごとな群落でした。その後はひたすら歩き、目的地の鳴沢氷結に予定通りに着くことができました。

紅葉はまだ早く、草花も少なかったのですが、天候にも恵まれ満足していただけたようでした。

(佐野 記)

紅葉は少し早かったようですが、このように、楽しい観察会ができました。何よりも、天候にも恵まれたことが一番でした。三湖台からは、青空の下、富士山、青木ヶ原樹海、西湖、本栖湖、遠くには南アルプスの山々も観ることができました。コロナ禍で開催できなかった「森で遊ぶ会」ですが、久しぶりの開催で、皆さん楽しんでもらえたようでした。

(佐野 報告)

観察会の様子



準備運動はしっかりと



「この樹は・・・」観察会の始まりです



もう少しです 頑張りましょう



やっと三湖台に着きました



あそこが本栖湖よ (三湖台)



富士山も見えました (三湖台)



紅葉台からの富士山は雄大



帰路でも「何だろう あの樹？」